



# サイトメガロウイルス

## 母子感染に

## 注意しましょう

妊娠中のお母さんがサイトメガロウイルスに感染すると、  
赤ちゃんが何らかの障がいを持って生まれてくる可能性があります。

今のところ、感染を防ぐためのワクチンはありません。  
ですから、お母さんが妊娠中に感染しないことがとても大切です。



# 「サイトメガロウイルス」ってなに？

## 発生しやすい状況と症状

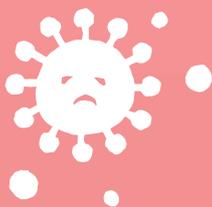
サイトメガロウイルスは、世界中のいたるところにいる、ありふれたウイルスです。

感染したときの症状はほとんどないか、風邪症状にとどまることが多く、サイトメガロウイルス感染と気づくことはまずありません。健康な子どもや大人が感染した場合は全く問題ないのですが、妊婦さんが感染すると、妊婦さんにほとんど症状がなくても、赤ちゃんにまで感染がおよぶことがあります。

感染した赤ちゃんに、流産・死産、脳や聴力に障がいなどが生じることがありますが、その症状や障がいの重さはさまざまです。特に重要なのは、進行性の難聴です。

一方で、感染した赤ちゃんに何も症状が出ないこともあります。また、生まれたときに症状がなくても、成長するにつれて症状が出る場合もあります。

何らかの症状が出る「先天性サイトメガロウイルス感染症」を発病するのは、感染した赤ちゃんの20%程です。



サイトメガロウイルス粒子（電顕写真）

# 「妊娠中」は要注意！

## 妊娠中の感染に注意しなければならない理由

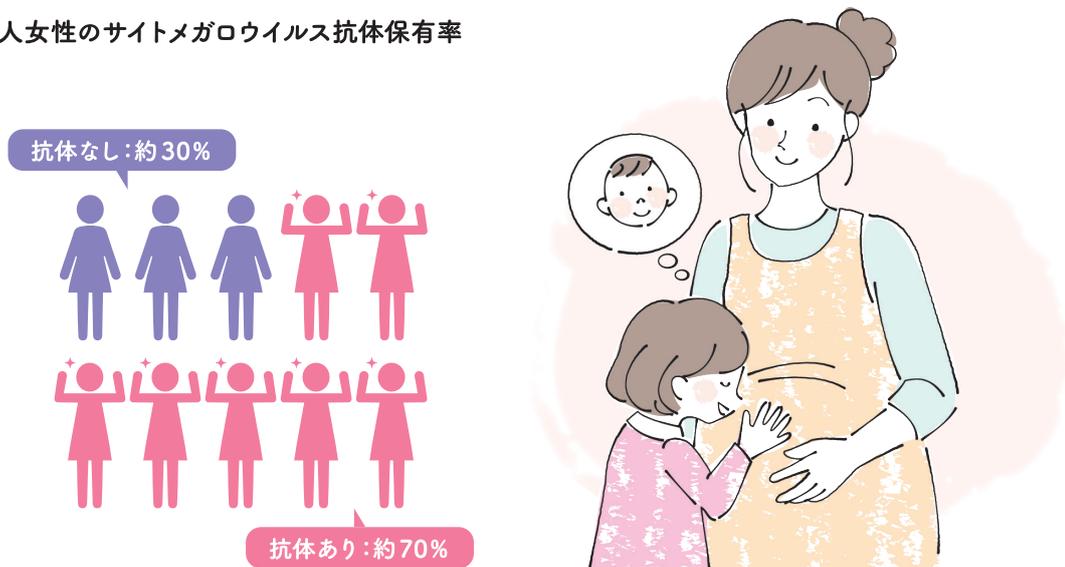
妊娠中のお母さんがサイトメガロウイルスに感染すると、胎盤や血液を通じてお腹の赤ちゃんに感染してしまい、赤ちゃんが何らかの障がいを持って生まれてくる場合があります。これをサイトメガロウイルス母子感染（または先天性感染）といいます。

サイトメガロウイルスの先天性感染症に対しては、今のところ、感染を防ぐためのワクチンがありません。ですから、**お母さんが妊娠中に感染しない**ことがとても大切です。

成人女性の70%はすでにサイトメガロウイルスに感染したことがあり、血液の中に抗体（免疫）を持っていますが、30%は感染を防ぐための抗体を持っていません。抗体を持っている方でもサイトメガロウイルスに感染することがありますが、抗体を持っていない方は、サイトメガロウイルスの感染を受けやすいので、特に注意が必要です。

妊娠中のお母さんからの感染以外に、分娩時・授乳・輸血・感染者（特に子ども）との接触によりサイトメガロウイルスに感染することがありますが、早産児を除き、生まれた後に感染した赤ちゃんや子どもにはほとんど症状はなく、健康問題は発生しません。

### 成人女性のサイトメガロウイルス抗体保有率



# 「妊娠中」に感染しないために！

## 赤ちゃんを守るために特に気を付けたいこと

サイトメガロウイルスは、感染したお子さんの唾液や尿に数年間にわたって出てきます。

実は、妊婦さんにおいてサイトメガロウイルスの主要な感染経路は、上のお子さんを含む周囲のお子さんです。でも、上のお子さんにとっても、お母さんはかけがえのない存在です。これまで通り、愛情を持って接してあげてください。そのときに、以下の点に注意するだけで、感染のリスクを1/5～1/10まで減らすことができます。



- 1 頻繁に石けんと水道水で15～20秒間、手を洗いましょう。特におむつ交換、お子さんの食事、鼻水やよだれの処理、おもちゃを触った後は念入りに手洗いをしましょう。
- 2 お子さんの唾液やおしっこがついてしまったおもちゃや家具などは、きれいに拭き取りましょう。サイトメガロウイルスは石けん、アルコール、漂白剤などに弱いので、手洗いや掃除の際は、水だけではなく、こうしたものが入った、薬局で売っている消毒薬を使うと効果的です。
- 3 よだれのついたお子さんの手やおもちゃが、口の中に入らないようにしましょう。
- 4 食べ物、飲み物はお子さんとは別にし、同じ箸やスプーン・フォークも使わないようにしましょう。
- 5 お子さんにキスをするときには、頬や唇へのキスはやめましょう。そのかわり、おでこにキスしたり、抱きしめてあげたりしましょう。
- 6 サイトメガロウイルスは乾燥に弱いので、敷物や布団類は天日で十分に乾燥させましょう。
- 7 保育園などお子さんたちと接する機会の多い職場で働いている場合は、職場でも①～⑥の感染予防法を実践しましょう。



# 症状にはどんなものがあるの？

## 先天性サイトメガロウイルス感染症の 主な症状について

赤ちゃんが生まれたときにみられる症状としては、以下のものが挙げられます。また、生まれた後しばらくしてから、難聴や発達障害などの症状が現れることもあります。

### 出生時の症状

- 低出生体重
- 肝脾腫、肝機能異常かんひしゅ
- 小頭症、水頭症
- 紫斑（出血斑）しほん
- 血小板減少、貧血
- 網脈絡膜炎もうみやくらくまくえん
- 難聴
- けいれん など

### 後から出てくる症状

- 難聴
- 発達障害（自閉スペクトラム症 など）
- 精神運動発達遅滞 など

# 感染してしまったらどうするの？

## 診断のための検査と治療薬について

先天性感染が疑われた場合は、生後3週間以内に赤ちゃんの尿を採取し、検査することで診断します※。

感染が判明した場合は、症状の有無を調べるために血液検査・聴力検査・眼底検査・脳画像検査などを行います。聴力に関しては、生後すぐに問題がなくても、時間が経ってから障がいがあることもあるので、発達も含めて定期的にフォローアップしていきます。

治療薬については、2023年から「バルガンシクロビル」というお薬が使用できるようになりました。バルガンシクロビルには、難聴や発達の遅延を改善したり、軽減したりする効果が認められています。

バルガンシクロビルは、水に溶かして服用するドライシロップ剤のお薬です。注射器のようなディスペンサーを用いて、1日2回、赤ちゃんに飲ませます。また、治療期間の目安は6カ月です。一生涯ずっと服用するものではありません。



※赤ちゃんの尿を採取して行うスクリーニング検査についてわかりやすく解説した動画がありますので、以下のURLまたは二次元コードよりご覧ください。

先天性サイトメガロウイルス感染  
ろ紙尿スクリーニング検査について

[https://cmvtox.umin.jp/\\_assets/images/cm/11-3.mp4](https://cmvtox.umin.jp/_assets/images/cm/11-3.mp4)

さらに詳しく知りたい場合は、産婦人科の主治医にご相談ください。



## サイトメガロウイルス Q&A



**Q** 妊娠中は、感染している人との接触を避けたほうがよいのでしょうか？

**A.** サイトメガロウイルスは、世界中のいたるところにいる、ありふれたウイルスです。感染しても、ほとんど症状が出ないため、気づかれないことが普通です。誰が感染しているかは、わかりません。インフルエンザのように飛沫感染\*することはなく、感染している人の唾液や尿に触れた手から感染します。これまで通り、周りの人と接して問題ありません。予防には、手洗いをきちんと行うことが重要です。

\*くしゃみや咳による「しぶき」によっておこる感染

**Q** 先天性サイトメガロウイルス感染症の赤ちゃんは、一年間でどのくらい生まれているのですか？

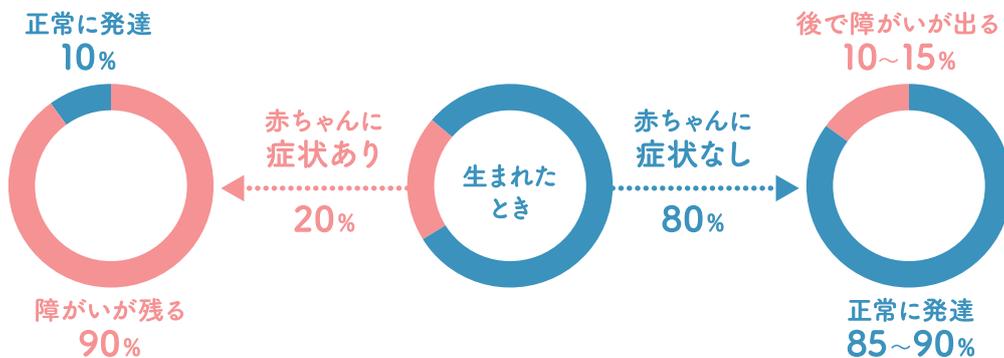
**A.** 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（平成20～22年度）が行った調査結果によると、新生児の300人に1人が先天性サイトメガロウイルス感染、1,000人に1人が症状のある先天性サイトメガロウイルス感染症でした。

つまり、日本では先天性サイトメガロウイルス感染児が毎年3,000人以上、また感染によって何らかの健康被害が生じている赤ちゃんが年間1,000人はいるという計算になります。

## Q 妊娠中に感染すると、 全ての赤ちゃんに障がいが出るのですか？

- A. 妊娠中のお母さんに抗体（免疫）があってもなくても、サイトメガロウイルスに感染することがあります。しかし、たとえ先天性感染が起こっても多くの赤ちゃん（80%）は無症状で生まれてきます。20%の赤ちゃんは症状を有して生まれてきますが、生まれた後に症状を軽減できる治療薬があります。そのため、安易に中絶を考えないでください。

お母さんがサイトメガロウイルスに感染した場合



**Q** 上の子どもが幼稚園に通っていて、よく風邪をもらってきます。妊娠中にサイトメガロウイルスに感染してしまったかもしれません。心配です。どうすればいいですか？

**A.** 現在のところ、全ての妊婦さんがサイトメガロウイルスの抗体を持っているかどうかをスクリーニングすることは、世界的にも日本においても推奨されていません。そのため、ほとんどの妊婦さんは抗体を持っているかどうか、わからない状況です。

しかし、施設によっては、抗体を持っていない妊婦さんに対して感染予防の教育・啓発をするためや、出生後の新生児に対して独自にスクリーニングを行っているところもあります。感染の心配がある場合は、まず産婦人科の主治医にご相談ください。



**Q** 妊娠中ですが、保育園で働いています。感染対策の徹底がどうしても難しいです。休職・離職したほうがよいでしょうか？

**A.** 乳児クラスなどで低年齢のお子さんを保育する場合は、尿や唾液に触れる機会が多く、感染対策が難しいと感じることもあると思います。そのため、妊娠中はできるだけ年長のクラスを担当するように配慮してもらいましょう。

また、保育園や幼稚園など、子どもと密接に関わる職場の管理者は、妊娠中の職員が可能な限り感染リスクにさらされないよう、業務調整などにおいて十分な配慮をお願いします。休職や離職については、妊婦さんご自身の体調を第一に考え、主治医に相談のうえ、判断するのがよいと思います。



Q 子どもが先天性サイトメガロウイルス感染症と診断されました。希少疾患なので、周りに相談できる人や共感してくれる人がいません。患者会などがありますか？

A. 先天性トキソプラズマ&サイトメガロウイルス感染症患者会「トーチの会」があります (<http://toxocmv.org>)。

「トーチの会」のウェブサイトには、サイトメガロウイルス感染症に関する詳しい情報や体験談はもちろん、妊娠中の母子感染を防ぐための注意事項やその他の母子感染症など、妊娠中に役立つ情報が掲載されています。

一度、「トーチの会」のウェブサイトをご覧ください。



● 先天性トキソプラズマ&サイトメガロウイルス感染症患者会

「トーチの会」 <http://toxocmv.org>



